

石川県七尾美術館だより

平成29年1月1日発行
編集・発行 (公財)七尾美術財団

第88号(冬号)



①



③



②

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

心にのこる美のかたち ～絵画・工芸を中心に～

- ①「蒔絵秋草文銚子」 当館蔵(池田コレクション)
- ②「雪中美人図」 宮川 長春 当館蔵(池田コレクション)

彫刻作品との対話 ～石川県の作家を中心に～

- ③「うずくまる女」 高田 博厚 当館蔵

展覧会紹介

平成29年1月4日(水)～

4月16日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「心にのこる美のかたち」

「彫刻作品との対話」

12月16日(金)「開催中」～2月12日(日)

◆第1展示室

「心にのこる美のかたち」

～絵画・工芸を中心に～

第1展示室では、長きにわたり人々の心にくこってきた美のかたちや表現に焦点をあて、絵画と工芸を中心に21点を紹介します。

私たちの周りには色々な「かたち」があります。立体に限らず、平面作品であっても同様です。また、作家たちの表現の「かたち」も多種多様です。工芸では用の美に装飾性が加わった、味わいのあるかたちが目を楽しませてくれます。また、絵画では人物・風景・静物と、様々なかたちのモチーフが作家独自の表現で描かれ、私たちを魅了します。

本展をとおして、「心にのこる美のかたち」に出会っていただけたら幸いです。

★長谷川信春(等伯)筆「陳希夷睡図」も展示。

《主な出品作品紹介》

◆「織部すすき文徳利」(池田コレクション)

桃山時代(17世紀)

本品は轆轤水挽きで形成された織部焼。

見所は細くすばまった頸から胴への曲線と、片身替りで大胆に掛けられた銅緑釉のなだれが、味

わいを増しています。胴部にはススキと松が伸びやかに表され、繊細さと力強さを兼ね備えた優品です。



◆「屋根」 古澤 洋子

1999年 第31回日展



ヨーロッパの強固な石積みにも、何世代にも続く人々の生活や営みがあります。年月を感じる不規則な古き屋根瓦に、テレビのアンテナ…。長き時を経た建物と、現代の生活が共存しているのです。墨のたらし込みによって、風化した屋根の質感と佇まいが、より巧みに表現されています。

◆第2展示室

「彫刻作品との対話」

～石川県の作家を中心に～

一言で彫刻作品といっても、材質は木・乾漆・

石・ブロンズ・石膏・FRPと様々で、材質や色によっても作品から受ける印象は異なります。それらは作家たちの自由な想像力と相まって、個性豊かな作品が生まれていきます。

七尾市出身で、フランスに渡り活躍した高田博厚や、同じく七尾市出身で平櫛田中に学び院展などで活躍した田中太郎など、石川県ゆかりの作家たちが制作した彫刻作品25点をご覧ください。静かな冬の展示室：彫刻作品と対話してみませんか。

◆「母子群像」 田中 太郎

1985年 第81回太平洋美術会展奨励賞



モデルは作者の夫人と孫たち。ふつくと丸みを帯び、どっしりとした安定感のあるフォルムは、母性を感じさせます。子どもたちを優しく包み、そして強く守ってくれる母…本来あるべき親子の姿を教えてください。なお、本作品は、師である平櫛田中が遺した原本から制作したもので、「師に恥じぬように」という作者の思いが伝わってくるようです。

◆共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	280円	2200円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「アニマルズ」「風景画讃歌」

2月25日(土) ～ 4月16日(日)

◆第1展室

「アニマルズ ～ツヨク・カワイク・ウツクしく～」

「動物」という言葉には、第1に「植物とともに生物界を構成する2大要素」という意味があり、この場合はムシ類も含めて「植物でない生物全部」が動物となります。そして第2の意味としては、「人間以外のホニウ類・鳥類・ハチウ類」のこと。つまり、およそ「動物園」にいる動物たちを指すわけです。やはり「動物」と聞いてイメージがしっくりくるのは、こちらの方ではないでしょうか。

では現在、この世界には一体どれだけの動物たちが生息しているのでしょうか。ちょっと思い出してみてください。身近な動物のみを挙げて、イヌやネコ・ウマやウシ、そして空にはスズメやカラスなど、それこそたくさんの方が浮かぶはず。動物たちは地球上に種として誕生して以来、長い時間をかけて独自の進化をとげてきました。それぞれの生態・環境に順応しつつ姿を変容させ、実に多彩な姿・形をしています。それは、自分の強さをアピールする勇ましい姿、可愛さを全面に押し出した姿、相手の目を釘付けにするような美しい姿などまさに千差万別です。



「赤楽馬文茶碗」 樂 弘入
(池田コレクション)



「兎」 吉田雪山

それらから私たちは想像力を駆使して、ある時は信仰や畏れの対象、またある時は様々な現象の象徴としてなど、空想上の動物たちを数多く創造しました。東洋では龍や麒麟・鳳凰など、また西洋ではペガサスやガーゴイル・フェニックスなどがよく知られるところです。

美術工芸品にも数多く取り上げられている彼ら。本展では動物たちが何らかのかたちで表現された作品を、当館所蔵品の絵画や彫刻・工芸などとおして幅広く紹介します。



「猛虎図」 大橋翠石
(池田コレクション)

◆第2展室

「風景画讃歌 ～What a wonderful scenery!～」

自然風景や街並みなど、屋外の様々な景観を描く絵画のジャンルである「風景画」。その萌芽はすでに紀元前、古代エジプトやギリシャなどの絵画や浮き彫りなどの背景にみられます。

西洋では時代が下ってルネサンス期「空気遠近法」や「線遠近法」の発見により、それまで宗教画や神話画など一部にすぎなかった「風景」が次第に「風景画」として独立していきます。17世紀頃には身近な風景を描いた絵画が人気を博し、それを専門とする画家も登場しました。

そして風景画が全盛期を迎えるのは19世紀、「写実」への追究に伴う諸流派の活動を経て「印象主義」が成立する頃。風景画は静物画や人物画と並ぶ最も主要なジャンルとなり、画家たちはそれまでのアトリエ内での制作のみならず、外に出て風

景を直視しつつ描くようになりました。

一方、東洋では風景画の登場はついぶん早く3～4世紀頃、六朝時代の中国ですでに「山水画」として、風景を主体とする絵画が描かれていました。その後も士大夫や禅僧といった知識層などに重視され、幾多の時代を経つつも常に絵画の1ジャンルであり続けます。

また日本については、山水画は隋唐時代頃の中国より伝わったようで、奈良時代の正倉院御物などにその例がみられます。そしてやまと絵の主要画題ともなり、中国と同様に絵画の一翼を形成しました。明治時代以降には西洋画の表現・技法なども大きく取り入れつつ、多彩な展開をみせて現在に至っています。

風景画は実際の風景とはまた異なった魅力を持ち、観る者の心を落ち着かせてくれます。それは実景がいわば「みたままの風景」であるのに対して、風景画は制作者の「魂」が込められており、そこに共感を覚えるからではないでしょうか。

本展では当館所蔵品より絵画を中心に、各種の風景画を紹介。長谷川信春(等伯)筆「山水図」も特別展示予定です。



「夜明け」 曲子明良



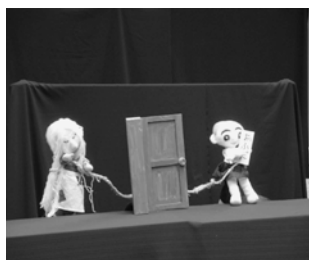
「ベニス運河Ⅱ」 荒牧弘志

◆共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	280円	220円
中学生以下無料・団体は20名以上です。	280円	220円	

ボローニャ国際絵本原画展報告

11月3日(木・祝)に始まったボローニャ展。小丸山認定子ども園年長さんの「御祓太鼓」と東雲高校美術部の生徒さんが、開会式に華をそえてくださいました。今回はイタリアでの開催50回目となる記念の年。当館での開催も19回目を数え、「秋には七尾でボローニャ展」が定着したように感じます。毎年開催の絵本作りに加えて、おはなし劇場は8回目、紙芝居は6回目の開催でした。入選作家のたけうちひろさんをお招きした、切り紙ワークショップも大盛況。皆さん、ありがとうございました。



11/13(日) おはなし劇場



土日開催 かんたん絵本を作ろうよ!



11/27(日) 切り紙でポップアップ!



11/20(日)「のまりん」の紙芝居劇場



開会式 小丸山認定こども園「御祓太鼓」

貸館催し物案内

市民ギャラリー

第73回北國写真展 七尾展

1月13日(金)〜15日(日)

初日は午前9時から、最終日は午後5時まで

第73回目の七尾展を迎え大変喜ばしいことです。一枚一枚各々個性ある発想で一瞬を納めたもので見応えがあるかと思ひ、今からわくわくして待っています。「乞うご期待」。

主催 北國写真連盟、北國新聞社、富山新聞社、福井新聞社

連絡先 宮崎 功

090-4320-2178

アートホール

第12回スポーツ医学研究会

2月9日(木) 開演 午後7時

特別講演 『逆境を乗り越えるためのメンタル

トレーニング―耐えて乗り越え立ち直る―』

講師 石村宇佐一教授

主催 (金沢学院大学人間健康学部スポーツ健康学科)

一般社団法人七尾市体育協会

連絡先 公益社団法人七尾市体育協会

0767(54)0003

第11回はっぴようかい

2月26日(日) 開演 午後1時30分

バロック〜古典派〜ロマン派〜近現代。音楽の時代ごとに演奏します。ピアノ演奏あり合奏あり歌もあり。幼児からおじいちゃんおばちゃんまで

みんなが楽しめるよう門下生一同がんばります♪
主催 TOSHIKOピアノ&リトミック教室
連絡先 藤井 090-8269-8136

おたのしみ発表会

3月4日(土) 開演 午前9時30分

放課後児童クラブの仲間が、友達と生活・遊び・学習を共にする中で、互いに励まし合い支え合いながら、一緒にしようねを合言葉に練習をしてきました。多くの方が見て下さい。待っています。

主催 小丸山放課後児童クラブ(第一・第二)

連絡先 0767(52)3710

第193回(合同)例会・パントマイム「チカパンの大道芸」

【限定】

3月12日(日) 開演 午後7時

ハンガーにかかる色々な帽子。関取、バニー、謎のチャイナ帽。どれもこれもろくなことになりやしない。お客さんを巻き込んで大道芸の旅に出ます。笑いあふれる時間をお楽しみ下さい。(当日入会の方も入場できます)

主催 七尾子ども劇場

連絡先 0767(52)0821

「春よこい」チャリティコンサート

3月25日(土) 開演 午後6時30分

能登半島地震から10年、全国から支援を頂き復興が図られました。今も全国的に多くの災害が発生しています。平穩に暮らせる事に感謝し、美しいこの故郷を大切にしたいを込めて開催します。

入場料 3000円以内

主催 「春よこい」コンサート実行委員会

連絡先 0767(53)0907

ボランティア研修旅行報告



当館の監視をお願いしているボランティアスタッフを対象に毎年研修旅行を実施しています。今回は7月4日(月)に、ボランティアさん15名と職員3名で富山へ行ってきました。最初に、富山市科学博物館へ。入口ではナウマンゾウが迎えに来てくれました♪1階展示室奥の、センサーで動くティラノサウルスは迫力満点!まるで生きているようでした。2階へ行くと、ダイヤモンドダストができる様子や強風体験ができる部屋があり、皆さんそれぞれに楽しそうに体験していました。昼食後、次に訪れたのは富山市ガラス美術館です。現代ガラス美術の巨匠デイル・チフォリ氏の作品を観て「素敵やね」「綺麗やね」皆さん作品に魅了されていました。あつという間に時間が過ぎ、無事研修旅行を終えることができました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



富山市科学博物館にて集合写真



天井に散りばめられた
デイル・チフォリ氏の作品

美術館の応援団! ボランティアさん募集!

現在42名の皆さんが楽しく無理なく活動しておられます。お客様が鑑賞しやすいように目配りしていただき、時にはマナーについての声掛けなどもしていただいています。興味・関心のある方、どうぞお気軽にお問合せください。

場所 七尾美術館展示室内
時間 9時~13時、13時~17時(半日交替)

第17回 友の会鑑賞の旅実施報告

今回の旅は10月19日(木)に実施し15名の参加をいただきました。

最初の見学先は大河ドラマで話題の長野県・上田城。まず大河ドラマ館を見学。出城・真田丸の大セツトや鎧兜、俳優陣の衣裳など細かいところまで時代考査のうえ再現されているそうで、テレビ美術の完成度の高さに驚きました。

次にボランティアガイドの案内で上田城内を見学。西櫓前から市街を見下ろすと、当時、御家存続に命を懸けた真田一族の熱い想いが伝わってきた。

昼食後は、松代文化財ボランティアガイドの案内で松代城址を見学。戦国時代に武田軍の拠点として築城されて以降、近代までの変遷を教えてください。真田宝物館では江戸時代の松代藩主・真田家の武具、調度品などを見学しました。

最後の見学先である水野美術館では水野コレクションを観覧。担当学芸員から展示作品に深く興味を持てる解説をしていただき、なかでも参加者の横山大観の出世作「無我」への注目度は高く感じられました。「無我」は他施設所蔵も含め3作品が存在しますが、学芸員からの魅力的な解説もあり、水野美術館の作品が一番ひいきになりました!

今回の旅は歴史めぐりのウエイトが大きく、水野美術館での滞在時間が短かったと参加者の声が多くあり反省しています。それでも、ご理解ご協力をいただき、無事に旅行を終えることができました。本当にありがとうございました。



長野・松代城址にて

友の会美術講座「木版画教室」

「ふる里を彫る」実施報告

9月11日(日)、25日(日)、10月24日(月)にわたり開催。参加者は4人。最初は、緊張した面持ちの皆さんでしたが、講師の七尾市在住の農民版画家・鈴木敏治先生の温厚な人柄で、すぐに気持ちがあぐれたようです。

1日目は、先生が持ってきてくださった資料や原版、作品をもとに先生と版画との出逢いから制作の流れなどお話し頂きました。次に落款印作り。最初は躊躇しましたが2、3回彫刻刀を前に進めるとすぐ彫る事に集中でき、それぞれに素敵な仕上がりで自信が持てたようです。

2日目は、テーマである「ふる里」の下絵を持ち寄り先生にみて貰いました。仕上がりの決め手となる下絵は重要ということで、構図や細部の省略など手直しをして、いよいよ彫り始めます。先生からの「上手く彫ろうとは思わず、楽しみながら彫ってください」との言葉で、皆さん彫りに没頭しました。

3日目は、いよいよ先生御用達の和紙で摺ります。刷毛での墨つけがまばらだとバレンで力強く摺っても線が出ず、つけすぎると輪郭が滲むなど、摺りの難しさに一喜一憂しました。最後は合評会。皆さんの素敵な仕上がりに、先生も喜んでくださいました。

当初は2回の講座でしたが、先生のお計らいで3回にさせていただきました作品を仕上げることができました。参加者の皆さんには欠席することなくご参加いただき、有意義な講座となりました。完成作品は2月12日(日)まで展示しています。



等伯コーナー

「長谷川等伯展」記念講演会報告

「等伯一門く無分から等伯、そして等誉まで」

講師 北春千代氏

(石川県立歴史博物館学芸主幹)



【等伯「誕生」の背景】

中世の能登国は能登畠山氏によって統治されてきました。七尾はその中心地として府中には守護館が置かれ、城山の地に居城の七尾城が築かれます。七代目当主・義総の頃に全盛期を迎え、「能登畠山文化」が開花しました。義総は文芸を好み、多くの公家や連歌師たちが能登を訪れています。当時の七尾は北陸有数の「文化都市」だったんですね。

等伯が生まれた天文8年(1539)頃はまだに義総の晩年期で、「畠山文化」の中で幼少期をすごしたと思われます。『等伯画説』(京都市・本法寺蔵)には能登畠山氏が「黙庵筆の猿猴図四幅一対」を所持していた、また能登の曹洞宗大本山・總持寺には「雪舟筆の十六羅漢図」や「韓翰筆の馬図四幅一対」が所蔵されていた旨の記述があります。おそらく等伯は実際にそれらを観たのでしょう。

これらの名画鑑賞などの機会に恵まれることによって、等伯は自らの画技を高

めていったと思われます。つまり当時の能登には、等伯を絵師として育む豊かな文化的土壌が整っていたわけです。

【長谷川等伯の生涯】

等伯が生まれたのは今からざっと470年ほど前です。父は能登畠山氏家臣とされる奥村文之丞宗道で、幼少時に染物屋の長谷川家の養子となりました。名は又四郎・帯刀で、号としては主に「信春」を用いています。等伯が絵師として活動を始めたのは大体20歳頃とされ、永禄7年・26歳制作の作品が目立ちますので、その頃にはすでに有力な絵師として活躍していたということでしょうね。

やがて30歳すぎ頃に京都へ移住。その後しばらく足どりは途絶え、再度表舞台に登場してくるのが記録上では天正11年(1583)45歳の時で、大徳寺の塔頭・総見院の襖絵を描いたとされます。さらに作品で活動が確認できるのは天正17年・51歳時に描いた大徳寺三門楼上天井画・柱絵ですね。その間等伯が何をしていたかですが、「狩野派」へ入門していた、もしくは和泉国(大阪府)堺に居住していたなどの説があります。

そして等伯が京都画壇で存分に偉才を発揮した時期とされるのが50歳代で、すでに「信春」から「等伯」へ名を改めていたようです。そのスタートの舞台を大徳寺にしたことは様々な面でプラスになりました。中でも中国南宋の画家・牧谿筆「観音・猿猴・竹鶴図」を鑑賞する機会を得たとされるのは重要です。同図は墨の調子の微妙な変化によって光・湿潤な大気が見事に表現されています。まさに中国水墨画の極致といえ、等伯に絶大

な影響を与えたことでしょう。

なお牧谿筆「猿猴図」には母子の猿のみが描かれています。等伯筆「竹林猿猴図屏風」(京都市・相国寺蔵)には父猿が追加されています。この父猿については等伯28歳筆の「三十番神図」(高岡市・大法寺蔵)内に同じポーズの猿が描かれており、これを転用したのかもしれない。すると等伯は、大徳寺に出入りする以前よりすでに「牧谿様の猿」を知っていた、ということになります。

さて等伯が画壇の頂点にたった記念碑的作品が54歳頃制作の、天下人・豊臣秀吉が嫡子・鶴松の菩提を弔うために創建した祥雲寺の障壁画(京都市・智積院蔵)です。それらは「大画様式」の金碧障壁画で、金地に色彩が乱舞し巨大な樹木に草花を所せましと描き、装飾性に富む構成は見事というほかありません。

しかしその直後、等伯を大きな試練が襲いました。長男・久蔵が僅か26歳で没したのです。久蔵は祥雲寺の画事でも父に負けない力量を発揮、等伯としてもその成長を大いに期待したでしょう。それだけに等伯は深く悲しみ、それがかの「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)を生み出す契機になったともいわれます。

「松林図屏風」には霧や霞なのか、朝のしっとりとした大気が光と混じりあって作り出された無限の空間に、4つほどの松林のグループが配置され、墨の濃淡と筆のタッチで霧に包まれた静かな情景が展開しています。それは故郷・能登半島の浜辺の松林を想起させ、あるいは等伯の心象風景が表れているのかもしれない。旧土佐藩士の福岡孝弟の所蔵であり、それ以前の伝来は不明ですが、もし

かすると等伯が土佐藩主・山内家に入出入りしていた可能性もありますね。

晩年は禅宗寺院が活躍の中心で、この頃の画風は画面に占める人物の比率が大きくなり、輪郭や衣の描線が少ない梁楷様の減筆体で描かれるのが特徴です。最晩年に至るまで制作を続けたようで、中でも70歳制作の「弁慶・昌俊相騎図大絵馬」(京都市・北野天満宮蔵)は老いを感じさせない迫力で驚かされますね。なお、慶長12年に豊臣秀頼が北野社を大改修しており、同絵馬はそれの際に豊臣家からの依頼により描かれたのかもしれませんが、等伯が没したのはその2年後、慶長15年(1610)72歳のことでした。

【能登の「長谷川派」絵師たち】

①無分(生没年不詳)

『等伯画説』の他には一切記録のない謎の絵師で、等伯養祖父ともいわれますがはっきりしません。作品も長谷川家菩提寺の七尾市・長壽寺が所蔵する「仏涅槃図」1点のみです。しかし同図が優れた画風で、しかも後に続く一連の「長谷川派」絵師が、構図をそのまま踏襲しているのが注目されます。つまり同図は「長谷川派仏涅槃図」の「原点」といえ、そこから無分が「長谷川派」の祖であった可能性を窺わせるんですね。

②長谷川宗清(道浄)(1507?~71)

等伯養父。七尾城下にて染物屋と絵仏師を営み、法号および画号として「道浄」という別名を持っていたようです。現存する作品はいずれも緻密な筆致と彩色が特徴で、特に過剰なまでに文様を描き込むのはいかにも染物職人らしいといえ

ます。等伯の印章が一緒に捺された共同制作を思わせる作品が存在していることから、父子とも制作活動に励んでいたでしょう。元龜2年(1571)に65歳で没したとされ、等伯京都移住の二因になったともいわれます。

③長谷川等誓(?~1636)

長壽寺過去帖に記載される「絵師で寛永13年(1636)正月26日に没した」と以外に全く記録がありません。但し現存作品がほとんど仏画で能登地域に伝来しており、かつ「仏涅槃図」などは「長谷川派」の構図を忠実に踏襲していることから、能登で等伯を継承した一門の絵仏師であった可能性が大きいです。そして活動期も桃山時代〜江戸時代初め頃とされることから、等伯に極めて近い存在だったのかもしれない。

【等伯の子供・弟子たち】

①長谷川久蔵(1568~93)

等伯30歳時の子で母は等伯の先妻・妙浄とされます。等伯京都移住の際には同行、早くから画才を発揮しました。そのことは文禄元年(1592)、26歳時の「祥雲寺障壁画」制作に父の片腕として参加、叙情性あふれる「桜図」を描いたことにも表れています。等伯は自分の後継者として大きな期待を掛けたと思いますが、残念ながら久蔵は「桜図」を描いて間もなく没してしまいました。

②長谷川宗宅(?~1611)

等伯の二男で母は久蔵と同じく妙浄。等伯という別名を持ちます。宗宅で重要な点は慶長15年(1610)、等伯が没し

て間もなく朝廷より「法橋」に叙せられたことで、それは「長谷川派」を正式に継承した証といえます。現存作品をみると幅広いレパートリーをこなしており、等伯を継ぐだけの力量を十分に持っていたでしょう。しかしその翌年、宗宅はあつげなく没してしまいます。その死が「長谷川派」の没落を早めた大きな要因となったのは間違いありません。

③長谷川宗也(1590~1667)

等伯の三男で52歳時の子。別名は新之丞で母は後妻の妙清といわれます。等伯が没した慶長15年(1610)段階では宗也は21歳。さらに翌年の兄・宗宅の死に伴い「長谷川派」を継承する立場になり、必死で一門を支えたと思われます。しかし、四男の左近とはあまりうまくいかなかったようです。宗也は絵屋を営むという道を選択し、その後家系は京都で続いていくことになります。宗也が没したのは寛文7年(1667)、78歳のこと。兄たちよりは長命を保ちました。

④長谷川左近(1593~?)

等伯の四男で母は後妻の妙清。別名は等重です。兄宗也の3歳年下で、等伯が没した慶長15年段階では18歳。没年は不明ですが現存作品の銘により、少なくとも38歳までは存命であったようです。左近は「雪舟六代」を宣言したことが目をはきまします。一門としての強い意志が感じられるのですが、これは兄の宗也を無視する行為であり不可思議です。ちなみに左近には等伯を思わせる画風の作品とともに、宗達風の作品もみられます。

⑥長谷川等胤(生没年不詳)

主に東日本を拠点にしていたようです。慶長11年(1606)に下総国(千葉県)香取神社の彩色のために弟子3人を連れて赴き、また元和6~8年(1620~22)には仙台市・瑞巖寺の障壁画制作を手掛けました。またその縁で仙仙藩主・伊達正宗に厚遇されたよう、連歌会などにも出席しています。

⑦長谷川等言(生没年不詳)

別名は等権で、江戸時代初期の元和・寛永年間(1615~44)頃に活躍したと思われます。注目されるのは等言筆「仏涅槃図」(東京都・養玉院蔵)に徳川幕府の実力者・南光坊天海が賛を入れていることで、等言が幕府内に有力な「つて」を持っていた表れといえます。

⑧長谷川宗圓(1589~?)

天正17年(1589)生まれ。名は左近、輝敏で等雪と号しました。土佐藩山内氏の御用を勤めたとされ、慶長16年(1611)には23歳で「高知城三之丸御殿障壁画」制作に参加しています。また、28歳で高知県・真念寺蔵の「弘法大師行状図画」を描いており、どうも土佐にゆかりを持っていたようです。

⑨長谷川甚丞(生没年不詳)

京都市・清水寺に甚丞筆で寛永15年(1638)銘が記される「牛若丸僧正坊図絵馬」があり、江戸時代初期の寛永年間頃に活躍していたことが窺われます。つまり等伯と時期を近くする「長谷川派」一門のひとりなのでしょう。

⑩長谷川主殿(生没年不詳)

現存作品より江戸時代初期の元和・寛永年間頃に活躍したと考えられます。作品からは室町時代の水墨花鳥図や「曾我派」の影響がみられ、その辺りをよく学んだ絵師だったようです。

【その後の「長谷川派」】

①宗也系・京都の「長谷川派」

等伯三男・宗也は京都で絵屋を経営し、その系譜は江戸時代をつうじて継承されていきました。絵師たちは等伯にならって代々「雪舟〇代」を名乗っています。主な面々を挙げると、八代が八坂神社や伏見稲荷神社に絵馬を残す宗清、十一代が「仏画名人」と称された等鶴、十二代が越中国(富山県)出身の等叔などです。現存作品からは、一門が主に仏画を手掛けていたことがわかります。そしてこの画系は明治時代以降も続き、「長谷川派」の中では唯一現在に至っています。

②等憶系・江戸の「長谷川派」

もうひとつの系譜が、江戸の等憶系です。等憶は等伯の娘婿・長谷川等秀の子。その等憶が宗伯信近を養子として江戸で続くのが「江戸の長谷川派」です。しかし、等憶が家宝の雪舟筆「山水長巻」を手放さざるを得なかったという話もあるくらいですので、相当に難儀したようですね。絵師としては信吉という別名を持ち信濃国(長野県)に足跡を残す等栄、「雪舟十三世」を称し江戸時代の終わり頃に活躍した宗伯などがいます。

※本文は平成28年4月29日に行われた「長谷川等伯展」記念講演会の内容を、当館の責任においてまとめたものです。



これからの展覧会予定



平成29年4月22日(土)～5月28日(日)〈会期中無休〉

◆第1・2・3展示室

「長谷川等伯展 ～天才絵仏師、みやこを目指す!～」

当館で毎年開催している、能登国七尾出身の絵師・長谷川等伯(1539～1610)のシリーズ展です。22回目となる今回は、まず絵仏師としての等伯の活躍を紹介、また京都で活躍する上で欠かすことのできない本法寺と、その塔頭・教行院の人脈にも注目、さらに晩年水墨画の魅力も紹介します。当館初公開となる仏画や「複製松林図屏風」などの参考展示を含め、約30点をご覧ください。

「十六羅漢図屏風」(右隻)
長谷川等伯
京都市・智積院蔵



重要文化財「日蓮上人像」
長谷川信春等伯
京都市・本法寺蔵
※前期展示



平成29年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込みください。お申込みのない場合はそのまま退会となってしまいますのでご注意ください。

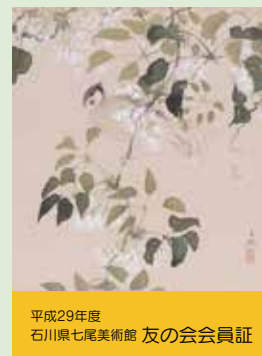
- ★入会手続き★ ①受付開始 3月1日(水)から【年度会費1,000円】※1
②受付場所 当館受付カウンターまたは郵便受付※2
(郵便振替用紙をご利用ください)

- ※1 会員証は美術館だより第89号(春号・2017年4月1日発行予定)と一緒に送ります。
※2 郵便局備え付けの振替用紙の通信欄に必要事項(会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名)をご記入のうえ、会費を添えて最寄りの郵便局窓口へお出しください。払込手数料(130円)は恐縮ですがご負担ください。

郵便振替口座番号 00710-0-50795
加入者名 石川県七尾美術館 友の会

★友の会特典★

- その1 当館主催展覧会の観覧料が割引になります。
その2 情報満載「美術館だより」をお送りします。(年度内4回発行)
その3 相互割引提携館主催の展覧会観覧料が割引になります。(会員本人のみ)
その4 特別企画展開会式・内覧会にご招待します。(無料)
その5 販売グッズが割引になります。(一部除く)
その6 喫茶室利用代金が10%割引になります。(10円未満切捨)



「近代日本画家色紙画帖」より(部分) 平福白穂
(池田コレクション)

※左記のほかにも友の会会員限定の催し、特典がございます。4月からご活用いただけるよう、お早目のご入会をお待ちいたしております。

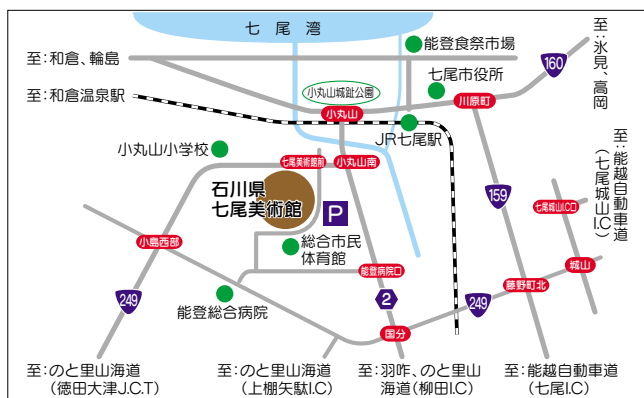


割引、プレゼントなど特典いろいろ!
ぜひ当館でもご利用ください。

無線でネット



エントランスホール及びティールームにて、Wi-Fiスポットサービスの「FREESPOT」をご利用頂けます。



- 飛行機…のと里山空港から「のと里山海道」利用約45分 ●車…「のと里山海道」徳田大津JCTから約15分又は「能越自動車道」七尾城山IC又は七尾ICから約10分 ●タクシー…JR七尾駅から約5分
●徒歩…JR七尾駅から約20分 ●市内循環バス「まりん号」…JR七尾駅前「ミナ.クル」バス停から「七尾美術館前」下車(順回り約8分・逆回り約14分、1日各8便) ●ななこコミュニティバス「ぐるっとF」…JR七尾駅前5番乗り場から「小丸山台1丁目」下車(西コース約10分、1日4便)

◎次号・第89号(春号)は4月1日発行予定です。

日	月	火	水	木	金	土	2017	
1	2	3	4	5	6	7	1	January
8	9	10	11	12	13	14		
15	16	17	18	19	20	21		
22	23	24	25	26	27	28		
29	30	31						

日	月	火	水	木	金	土	2	February
5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18		
19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28						

日	月	火	水	木	金	土	3	March
5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18		
19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28	29	30	31			

◆1月～3月カレンダー◆ ※は休館日
◆開館時間◆ 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台一丁目1番地
TEL(0767)53-1500 / FAX(0767)53-6262
http://nanao-art-museum.jp

石川県七尾美術館だより

第88号(冬号)